

専門科目の特徴

【大学院】

専門科目	特徴
臨床心理学特論	本授業では臨床心理学の専門的な知識の獲得を目指す。前期には講義と実習を通して、認知行動療法の理論的背景や技法、面接の進め方を理解する。後期は辻悟の「治療精神医学」を中心に、さまざまな臨床事態の事例を通じて体験的に学習する。授業内では院生間で議論を行う時間を設ける。また、院生自身が文献の担当箇所をレジュメとしてまとめ、各授業で発表することを求める。
臨床心理面接特論	前半の15回は、講義とロールプレイを通して臨床心理面接における面接者の基本的な有り様（考え方・態度）について学ぶ。後半の15回には面接の方針決定の段階を想定した模擬面接や介入段階を想定した模擬面接を行い、実習を通して面接の進め方や治療関係の構築の仕方について学ぶ。
心理統計学特論	本授業では、修士論文で用いられることの多い統計解析手法について実践的に学ぶ。講義と演習を交互に行い、練習問題を通して、統計処理が自分で実施できるかを確認しながら進める。
学習心理学特論	この授業では学習の原理に基づいて望ましい行動を増加・問題のある行動を減少させたり、新しい行動を生起させる方法である行動変容法について学ぶ。学生は教科書を予習して、設定された課題の準備をしておく必要がある。授業では基本的な内容を説明し、課題について議論していく。
家族心理学特論	児童虐待など子育てにまつわる問題や不登校やいじめ、ひきこもりなど子どもの問題には家族の病理が反映されているといわれている。本講義では、家族と家族関係の心理と病理に関する基本的な問題について、理論と実践の両面から考察する。
老年心理学特論	人間の中年期から老年期について、「身体・感覚機能のエイジング」「認知機能のエイジング」など身体・感覚・認知機能の側面、「家族との関係」「仕事・社会との関係」など家族・社会関係の面、「心理的問題」「認知症」に対する理解と支援の面について講義を行う。
心理療法特論（認知行動療法）	本授業では認知行動療法を取り上げ、その基礎から応用までを学習することを目的とする。まず、強迫症と心的外傷後ストレス障害（PTSD）を取り上げ、教科書の輪読を通して、それらを対象とした認知行動療法の理論的背景と実施方法を学習する。授業の後半には事例研究の輪読を行い、見立ての仕方や面接の進め方について理解を深める。

